

第3章 実践事例—中学校編—

事例 1 命の重みを考える
— 沖縄・阪神淡路大震災・生きること —
(太子町立太子西中学校第 1 学年)

中学校事例 1

命の重みを考える
－沖縄・阪神淡路大震災・生きること－

太子町立太子西中学校第1学年

1 テーマ

命の重みを考える
－沖縄・阪神淡路大震災・生きること－

2 実践のねらい

命や人権に関する諸問題について学習する中で、限りある命・かけがえのない命を実感することによって、周りの人とよりよい関係を築くとともに、精一杯生きようとする意欲を持つ。

3 テーマ設定の理由

(1) 本校の概要と児童生徒の実態

本校は姫路市に隣接した太子町の西部に位置し、昭和57年に太子東中学校から分離した創立25周年を迎える学校である。平成13年に現代的でバリアフリーが整った校舎が新築され、現在446名（14学級）の生徒が在籍している。

校訓として、**Fight**（闘志）**Thinking**（英知）**Harmony**（調和）を掲げ、「共に生きる豊かな心と智慧を育む－ほんの少しを合言葉に－」を学校教育目標に定め、日々の実践に取り組んでいる。朝の読書から一日が始まることで集中力も高まっており、また部活動も盛んで多くの部が好成績を収めている。

大半の生徒は落ち着いた学校生活を送っているが、より一層命や人権に関する諸問題について学習を深め、周りの人とよりよい関係を築くために、本実践に取り組んだ。

(2) 指導のポイント

【感動の体験】

- ・兵庫県広域防災センターや震災モニュメントの見学をとおして、生と死について考えることの大切さを実感させる。
- ・自分が生きている生は、かけがえのないただ一つの命であるとともに、他の命とつながりあっていることを学習や体験をとおして感じさせる。

【感性を育む】

- ・命や人権に関する現代の課題を学ぶことから、命の重みを感じさせる。
- ・命が育まれていること、命が支え合っていることなどを実感する中で、精一杯生きることの大切さを感じさせる。

【想像力の育成】

- ・学習を進める中で、相手の立場に立って考えることの大切さを実感させ、周りの人とよりよい人間関係を築いていこうとする意欲を持たせる。

4 事前

(1) 先生の準備

- 学年の会議や職員会議をとおして
 - ・教職員同士の情報交換を図り、生徒の状況に適した教材や資料の収集に努める。
- かけがえのない命を大切にす研修
 - ・「いじめられている君へ、いじている君へ」（朝日新聞）を読んで話し合う。
- 沖縄への修学旅行の事前の研修
 - ・沖縄の歴史や文化について学習する。
- 阪神淡路大震災からの復興についての研修
 - ・兵庫県広域防災センターの見学等、阪神淡路大震災について理解を深める。
- 命や人権に関する諸問題についての研修
 - ・新聞記事などをとおして、現代社会が抱える命や人権に関する諸問題について学ぶ。

(2) 教育課程上の位置づけ

- ・社会
- ・道徳
- ・特別活動
- ・総合的な学習の時間

(3) 子どもたちの準備

- ・自己肯定感を高める体験をする。
- ・道徳心情アンケートに回答する。
- ・阪神淡路大震災について本で調べたり、体験した人に聞き取り活動を行う。
- ・修学旅行で訪れる沖縄について事前に調べる。

(4) 家庭・地域との連携

- ・家庭や地域の人々に対し、命の大切さを実感させる教育を進めていくねらいや趣旨を伝え理解と協力を求める。
- ・学校だよりや学年通信、学級通信などで学習の成果を伝える。
- ・消防署や社会福祉協議会などに協力を依頼する。

5 本校の実践の特色

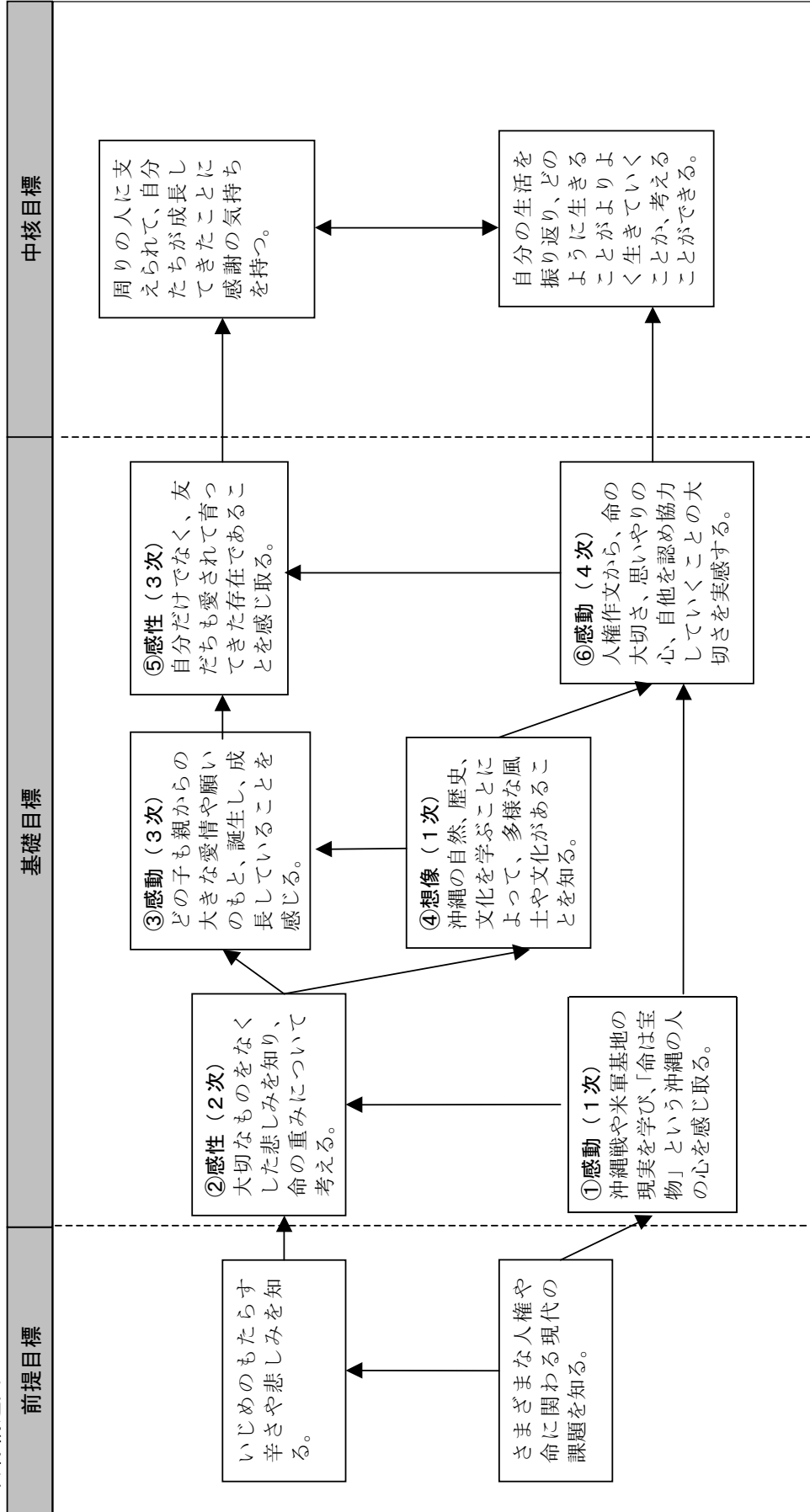
- (1) 平成 18、19 年度文部科学省「児童生徒の心に響く道徳教育推進事業」、兵庫県教育委員会指定「道徳教育実践推進アクションプラン」の研究指定を受け、その実践を基盤に取り組みを進めた。
- (2) 沖縄への修学旅行にむけて、1、2 年生が共に事前学習を開始した。
- (3) 平成 16、17 年度日本新聞教育文化財団から「N I E (newspaper in education・新聞による教育を)」の実践指定を受け、この実践を踏まえ、新聞記事等を活用した学習に継続して取り組んでいる。

事例 1 命の重みを考える—沖繩・阪神淡路大震災・生きること— (太子町立太子西中学校第1学年)

6 目標分析表

	学習活動	感動の体験	感性を育む	想像力の育成	先生の振り返り
事前	<ul style="list-style-type: none"> ○「いじめられている君へ、いじめている君へ」(朝日新聞)を読む。 	<ul style="list-style-type: none"> ○いじめのもたらす辛さや悲しみを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○相手のことを思いやる気持ちやいじめをなくすために行動に移す心を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分を大切にすることや、相手を大切にすることが、いじめをなくすために大きな力となることを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の特性を学び尊重することの大切さを感じさせたか。 ○現在の沖繩をめぐって理解させられたか。
1次 (2時間)	<ul style="list-style-type: none"> ○沖繩への修学旅行の事前学習に取り組む。 ○沖繩の歴史や基地について知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○沖繩の歴史や風土について知る。 ○沖繩戦や米軍基地の現実を学び、「命は宝物」という沖繩の人の心を感じ取る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「さとうきび畑」の歌を聞いて、この歌に込められた平和への願いを感じ取る。 ○さとうきびを食べて、沖繩の風土を感じ取る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○沖繩の自然、歴史、文化を学ぶことによって、多様な風土や文化があることを知る。 ○地域の特性を学び尊重することの大切さを感じる。 	
2次 (9時間)	<ul style="list-style-type: none"> ○兵庫県広域防災センターの見学、体験学習をする。 ○震災モニュメントを見学する。 ○震災関連の新聞記事を集め、感じたことを発表しあう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○地震体験・避難・消火栓や消火器の実習を行い、震災の恐ろしさを体験し、自分たちにもできることを考える。 ○13年前に兵庫県が経験した悲惨なできごとを知り、復興をめざした姿を学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○実習を通じて、震災の恐ろしさや命の重みについて考えることができる。 ○震災の体験から、大切なものをなくした悲しみを知り、命の重みについて考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○震災を体験したことにより、人はどのような思いをしたのかを想像する。 ○他の人のためにすることが結局は自分を大切にすることであることを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○他の人のためにすることが結局は自分を大切にすることや、思いやりを大切にすることができたか。
3次 (8時間)	<ul style="list-style-type: none"> ○出産した母親から話を聞く。 ○自分の名前の由来について調べる。 ○『たったひとつのたからもの』について学習する。 ○命に関する絵本の読み聞かせを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○母親から直接、人の誕生や出産の話聞き、大変さを実感する。 ○どの子も親からの大きな愛情や願いのもと、誕生し、成長していることを感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○直接話を聞くことで、親の喜びや願いを知る。 ○自分だけでなく、友だちも愛されて育ってきた存在であることを感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分が生まれてきた時も、このように大切にされて育ってきたことを理解する。 ○周りの人に支えられて自分たちが成長してきたことに感謝することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○周りの人に支えられて、自分たちが成長してきたことへの感謝の気持ちを持たせることができたか。 ○命のかけがえのなさを実感させることができたか。
4次 (5時間)	<ul style="list-style-type: none"> ○命や人権に関わる諸問題について考える。 ○人権作文の(優秀作)を読み、自分の意見をまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○中学生の人権作文から、命の大切さ、思いやりの心、自己を認め協力して生きていくことの大切さを実感する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○様々な困難を乗り越え、力強く生きていく中学生の姿を感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の生活を振り返り、どのようになんか生きていくか、想像する。 ○人権作文に表されているような心情について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分を大切にすることが相手に大切にすることや、思いやりの大切さを感じさせたか。
事後	<ul style="list-style-type: none"> ○振り返りカードに記入する。 ○命の学習についての感想を話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○命の学習の中で一番感動したことをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○命について感じたことを作文にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○これからの人生をどのように送っていきたいか発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分を大切にすることが相手に大切にすることや、思いやりの大切さを感じさせたか。

7 目標構造図



(凡例) ①感性 (1次) : 「①」は指導の順序、「感性」は指導の観点が「感性を育む」、「(1次)」は学習活動が「1次」であることを示す。

8. 事前の教員研修と指導の概要

(1) 教員の事前研修 (実施の時期については、(2)「指導の概要」の中に明記)

研修内容	
a	○かけがえのない命を大切にするための研修 ・「いじめられている君へ、いじている君へ」(朝日新聞)を読んで話し合う。
b	○沖縄修学旅行に向けての研修 ・『歩く・見る・考える沖縄』(沖縄時事出版)を使って、沖縄の歴史や文化について学習する。
c	○阪神淡路大震災からの復興についての研修 ・兵庫県広域防災センターの下見を含めて、阪神淡路大震災への理解を深める。
d	○命や人権に関する諸問題についての研修 ・新聞記事等をとおして、現代社会が抱える命や人権に関する諸問題を学ぶ。

(2) 指導の概要 (全23時間)

内 容	
事前	○朝の読書や学活の時間を活用して ・「いじめられている君へ、いじている君へ」(朝日新聞)を学年全員が読む。 教員研修 a
1次 (2時間)	○平和について考える。 1 3年生で実施する「沖縄修学旅行」の事前学習に取り組む。 ・「沖縄を知ろう」と題して、沖縄の歴史や基地等について学習する。 ・さとうきびを食べて、沖縄の文化について知るきっかけとする。 ・「さとうきび畑」などの沖縄の音楽を鑑賞して、歌に込められた平和への願いを感じ取る。 2 沖縄戦や原爆などの戦争に関する新聞記事を集めて、多くのかけがえのない命が奪われた戦争の悲惨さを理解する。 教員研修 b
2次 (9時間)	○阪神淡路大震災について理解を深める。 1 阪神淡路大震災による被害について知る。 2 兵庫県広域防災センターの見学をし、体験学習をする。 3 神戸での校外学習で、震災モニュメント等を見学する。 4 見学や体験学習で学んだことをまとめて発表する。 5 1月17日の震災関連の新聞記事を集めて、地域の特性を学び尊重することの大切さを感じる。 6 自分にとって大切な命が失われても、精一杯生きようとする姿にふれる。 教員研修 c
3次 (8時間)	○ <u>愛され育てられてきた大切な命について考える。</u> 1 出産した母親から話を聞くことをとおして、命が誕生することの喜びや大変さを感じ取る。 2 自分の名前の由来や誕生エピソードを発表し合う。 3 『たったひとつのたからもの』をとおして、生きることの幸せについて考える。 4 『葉っぱのフレディ』を読み、命はつながり合っていることを学ぶ。 5 『いのちのおはなし』を読み、自分にとって命を大切にするとはどういうことを考える。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 2px; display: inline-block; margin-top: 10px;">指導実践(1)~(4) p43~p52</div>

事例 1 命の重みを考える－沖縄・阪神淡路大震災・生きること－（太子町立太子西中学校第 1 学年）

<p>4 次 （ 4 時 間）</p>	<p>○命や人権にかかわる諸問題について考える。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 いじめの問題をとおし、自分も相手も大切な存在であることを知る。 2 「人権作文・優秀作」を読み、すばらしいと感じた点や自分になかった視点などについて考える。 3 命や人権に関する新聞記事を読み、命の大切さ、思いやりの心、自他を認め協力して生きていくことの大切さを実感する。 4 命や人権に関する新聞記事について、自分や家族の意見を書きこむ。 	<p>教員研修 d</p>
<p>事後</p>	<p>○振り返りカードに記入する。</p>	

9 指導実践

3次	愛され育てられてきた大切な命について考える。
----	------------------------

(1) 第1時

ア 本時のねらい

出産した母親の話を書くことをとおして、妊娠の喜びや大変さ、誕生したわが子への愛情等を感じとる。

イ 指導のポイント

(ア) 感動の体験

生後間もない赤ちゃんとも母親に出会うことで、大人に見守られながら生きる小さな命の存在を感じとらせる。

(イ) 感性を育む

母親から直接話を聞くことで、妊娠の喜びやわが子への愛情などを理解させる。

(ウ) 想像力の育成

母親（自分の母親も含め）が、赤ちゃんを育てるために苦労を積み重ねながら深い愛情を持って接していることを理解させ、一人ひとりの命の重みについて考えさせる。

ウ 準備物 なし

エ 先生の準備（事前の打ち合わせと教員研修）

(ア) 協力してくれる母親との打ち合わせ

- ・妊娠の喜びや大変さ、わが子にける愛情の深さなどについて話してもらうように依頼する。

(イ) 出産や育児についての教員研修

- ・母親との打ち合わせをもとに、中学生に何を伝えたらよいかを学年の教員間で話し合い、それをもとに指導案を作成する。

オ 展開

	学 習 活 動	指導上の留意点
導 入	1 出産したばかりの母親に質問したいことを確認する。	・質問の要点を簡潔にまとめて、学習の確実な理解につなげる。
展 開	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px; text-align: center;">生後2か月の赤ちゃんともにお母さんの話を聞こう。</div> 2 母親の話を聞く。 3 母親の話を聞き、質問をする。 ・「子どもができています」と言われたときの気持ちを教えて下さい。 ・赤ちゃんがお腹にいたときは、体が重く感じましたか。 ・出産の前は緊張しましたか。	・生後2か月の赤ちゃんにも会場に来てもらい、新たな生命の誕生についてより深く考えさせる。 ・妊娠の喜びや出産の大変さ、わが子への深い愛情について話してもらう。 ・赤ちゃんへの配慮を怠ることなく、集中して話を聞かせる。

展 開	<ul style="list-style-type: none"> ・陣痛はどれくらい痛いですか。また、どんな気持ちでしたか。 ・赤ちゃんが生まれた時の気持ちはどんなでしたか。またどんな感動がありましたか。 ・お母さんになったときの心境を教えてください。 ・生まれる前と後では、思ったことに変化がありましたか。 	
ま と め	<p>4 授業の感想を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お母さんは自分の睡眠時間や自由時間をけずって育ててくれたんだということがよくわかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分や友だちも家族の深い愛情に育まれてきたことを実感させる。

カ 先生の振り返り（次の実践に向けて）

(ア) 可能であれば、学年全体ではなく、クラス単位で話を聞くほうが望ましい。

(イ) 実際に生後2か月の赤ちゃんとともに母親から直接話を聞くことをとおして、新たな発見や母親の愛情を感じることができて、集中した学習ができた。

（太子西中だよりより）

9月20日（木）第6校時、1年生は体育館で道徳学習会を実施しました。1年生の道徳学習のテーマは、「命を大切にする」です。お母さんと赤ちゃん（2ヶ月）をお招きして、「命を大切にする」ことのお話を聞きました。

お腹の中に、新しい命が誕生した瞬間から出産にいたるまでのことや、親になった気持ちなどを話してくださいました。「あなたがた一人ひとは、親や周囲の人たちに愛されて大きくなっています。」と話されていたことが、印象に残りました。

講演の間、赤ちゃんは、静かにみんなの様子を見ていました。



キ 振り返りカード

振 り 返 り カ ー ド		
年 組 名 前 ()		
	学習・体験の目標 (めあて)	自分の振り返り
感動の体験	○生後間もない赤ちゃんを母親に出会って大人に見守られながら生きる小さな命を感じる事ができましたか。	
感性を育む	○妊娠の喜びやわが子への愛情などを感じ取る事ができましたか。	
想像力の育成	○母親が、子どもを育てるために苦労を積み重ねながら、深い愛情を持って接していることを実感できましたか。	
全体を振り返っての感想：		
先生から：		
家庭から：		

【生徒の作文】

- 赤ちゃんを見たとき、2か月ぐらいでこんなに大きいんだと思いました。それにお母さんは赤ちゃんを産んだ後なのにすごく細いなと思いました。お母さんの話を聞いていて思ったのは、「命は大切だ」ということです。言われていたように最近のニュースでは、赤ちゃんを車の中に置き去りにしたり、暴行したりなど、ひどいなと思うことが山ほどあります。お母さんが言われていたように、命は大事だと思いました。

赤ちゃんが2～3時間おきに起きるなんて知りませんでした。私たちのお母さんもそんなに苦労して育ててくれていたのを、今日初めて知りました。自分の睡眠時間や自由時間をけずってでも育ててくれたことに感謝したいと思います。今日は命の大切さや赤ちゃんを産む時の大変さを分かりやすく教えて下さりありがとうございました。

(女子の感想より)

- 今日の話聞いて、びっくりしたことが3つありました。
1つは、陣痛が始まって生まれるまで13時間もかかったということでした。僕の予想では5時間ぐらいだと思っていたので子どもを産むというのは、すごく大変だなあと実感しました。僕の母からも陣痛促進剤を打ってもらってから、ものすごく痛くなったと聞きました。

2つ目は、赤ちゃんが1～2時間おきに泣くことでした。親になるということは、うれしいことはたくさんあるけど、しんどいこともあって大変だと思います。でも、しんどさよりもうれいことの方が大きいから育てていけるのだと思います。

3つ目は、体重の平均が3kgということでした。僕は2.5kgぐらいだったので、平均

2kgだと思っていました。僕は今、今日来て下さった赤ちゃんとお母さんに感謝の心でいっぱいです。ありがとうございました。赤ちゃんには、これから元気に大きくなってほしいと思っています。
(男子の感想より)

(2) 第2、3時

ア 本時のねらい

自分や友人がかけがえのない存在であることに気づかせ、自他の命を大切にしていこうとする心情を培う。

イ 指導のポイント

(ア) 感動の体験

自分が誕生したときの様子や、名前の由来を知ること、自分が家族に慈しまれ育てられた存在であることに気づかせる。

(イ) 感性を育む

親に自分の名前の由来や誕生エピソードをインタビューすることによって、親にとって自分自身がかけがえのない存在であること、また、その時々を支えてくれた身近な人々の存在を再認識させる。

(ウ) 想像力の育成

友人の名前の由来や誕生エピソードを聞くことで、友人もまた自分と同じように大切に育てられた命であることに気づかせる。

ウ 準備物 赤ちゃん人形、命名書、インタビューカード

エ 先生の準備 (事前の打ち合わせと教員研修)

(ア) インタビューカードの作成

自分の名前の由来や、誕生エピソードについて聞き取りをするためのインタビューカードを作成する。

(イ) 生徒が提出したインタビューカードを確認し、個々の名前の由来や誕生エピソードを把握する。また、個々の生徒について配慮すべきことはないか確認しておく。

オ 展開

	学 習 活 動	指導上の留意点
導 入	1 赤ちゃん人形を抱っこする。	・赤ちゃんの正しい抱き方、あやし方を実体験させ、デリケートで小さな生命を実感させる。
展 開	2 命名書に自分の名前を書く。	・命名書の習わしを知らせ、親の願いがこめられた自分の名前を丁寧に書かせる。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0; text-align: center;">名前がこめられた願いを感じとろう。</div> 3 自分の名前の由来や誕生エピソードを発表する。 ・みんないろいろなことを経験してここまで大きくなったんだな。 ・陣痛が始まってから生まれるまで、こんなに時間がかかるとは知らなかった。	・親から聞き取りをした、インタビューカードの内容を発表させることで、改めて親の我が子に対する深い思いに気づかせる。

展 開	<ul style="list-style-type: none"> ・生まれたときは小さかったのに、今は大きくなっているんだな。 ・一人ひとりの名前には、家族の願いがこめられているんだな。 ・発表するのは少し照れくさいけれど、友だちの話を聞けてとてもよかった。 <p>4 『五体不満足』の著者である乙武洋匡さんの誕生エピソードから、命の誕生によせる親の深い思いを感じる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・我が子との初対面でお母さんが、喜びの感情をいだいたのはすごいと思った。 ・親の我が子への愛情の深さには驚かされる。 ・乙武さんが前向きにがんばれるのは、きっとお母さんの喜びから力をもらっているんだな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表し自己開示することで、クラス内のお互いの距離を縮めさせる。 ・自分の話と人の話の共通点を考えさせる。 ・友人の発表を聞くことで、人もまた自分と同じく大切に育てられた命であることに気づかせる。 ・複雑な家庭環境の生徒の心情を傷つけないよう配慮する。 ・子どもと最初に出会う時の、親の我が子に対する深い愛を感じとらせる。
ま と め	<p>5 本時の学習の感想を書く。</p>	

カ 先生の振り返り（次の実践に向けて）

- (ア) 自我に目覚め、親に対して反抗的な態度をとってしまう時期でもある中学生にとって、自分がいかに周囲から愛されて育てられたか、ということに気づく体験となった。
- (イ) 友だちの話を聞くことで、周りの人々も自分と同じように大切な存在であることを理解させることができた。

事例 1 命の重みを考える－沖繩・阪神淡路大震災・生きること－（太子町立太子西中学校第 1 学年）

キ 振り返りカード

振 り 返 り カ ー ド		
年 組 名 前 ()		
	学習・体験の目標（めあて）	自分の振り返り
感動の体験	○自分が誕生したときの様子や、名前の由来を知り、親の大変さを実感することができましたか。	
感性を育む	○親から聞き取りをしたインタビューカードの内容から、親の我が子に対する深い思いを感じることができましたか。	
想像力の育成	○友だちの発表を聞き、友だちも自分と同じように大切に育てられた命であることを理解をすることができましたか。	
全体を振り返っての感想：		
先生から：		
家庭から：		

(3) 第 4 時

ア 本時のねらい

「生きる」ということについて考えることをとおして、これからの自分の人生において大切なことは何かを学びとる。

イ 指導のポイント

(ア) 感動の体験

- ・短い生涯を生きた息子と共に、成長しながら過ごした両親の生き方とおして、「命の大切さ」「家族愛」「生きることの幸せ」等を感じとらせる。

(イ) 感性を育む

- ・「人の幸せは、命の長さではないのです」というお母さんを支えた言葉の意味を考えさせ人それぞれの「幸せ」を感じとらせる。

(ウ) 想像力の育成

- ・我が子に対する思いや人生観にふれさせ、命のかけがえのなさに共感する心を育てる。
- ・これからの人生を意欲的に生きていく為にはどうすればよいかを考えさせる。

ウ 準備物 写真、ワークシート、DVD、CD ラジカセ

エ 先生の準備（事前の打ち合わせと教員研修）

(ア) 資料の検討・作成

『たったひとつのたからもの』（文藝春秋）を読み、生徒に与える資料を精選する。

4 展開

	学 習 活 動	指導上の留意点
導 入	1 何歳まで生きられたら幸せかを考える。	・何歳まで生きられたら幸せか、理由も含めて多くの生徒に発言させ、学習への意欲を喚起する。
展 開	2 秋雪ちゃんの成長を振り返る。 ・秋雪ちゃんの病気 ダウン症 心内膜床欠損症 肺高血圧症 ・病気を知ったお母さんの気持ち	<ul style="list-style-type: none"> ・命に関わる病気であり、「長く生きられない」という事実を聞かせる。 ・資料や写真から母の揺れ動く気持ちを読みとらせる。
	3 両親の我が子に対する思いを知る。 お母さんが支えられてきた言葉について。	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> 秋雪ちゃんのお母さんを支えてきた「人の幸せは、命の長さではないのです」という言葉について考えよう。 </div>	
		<ul style="list-style-type: none"> ・各生徒が最初に生きたいと思った年齢と比較して、考えさせる。 ・CM ソングを流すことによって落ち着いた雰囲気をつくる。 ・息子から与えられた両親の幸せに気づかせる。 ・ゆっくりと教師が資料のエピローグを朗読する。
ま と め	4 本時の学習の感想を書く。 生徒の感想 <ul style="list-style-type: none"> ・「短い生涯であっても幸せな人生があるんだなということがわかる」 ・「秋雪ちゃんもお母さん・お父さんも本当にせいっぱいがんばったと思う」 ・「人の幸せは、命の長さではないのです。というお母さんの言葉の意味を考えていきたい」 	<ul style="list-style-type: none"> ・ただ単に同情で終わらせるのではなく、その奥にある自分の考えや経験なども合わせて書いていくようにさせる。

事例 1 命の重みを考える—沖繩・阪神淡路大震災・生きること— (太子町立太子西中学校第 1 学年)

カ 先生の振り返り (次の実践に向けて)

- (ア) 教師自身が感動した題材を生徒に与えていくことは、とても大切に意義のあることだと思う。しかし、子どもたちにそれを教材として与えていくためには、子どもの視点に立った教材研究が必要であるということを切に感じた。
- (イ) 当然のことながら、多くの生徒は長生きすることが幸せであるという考えを持っている。しかし、短い生涯であっても、その中に幸せを見いだすことができるということを手学んだと思う。自分の生き方と対比させながら、さまざまな人生・生き方を学ぶことによって、「命の大切さ」を実感できることに少しでもつながっていくと感じた。

キ 振り返りカード

振 り 返 り カ ー ド		
年 組 名 前 ()		
	学習・体験の目標 (めあて)	自分の振り返り
感動の体験	○「家族愛」「生きることの幸せ」などについて考えよう。	
感性を育む	○「人の幸せは、命の長さではないのです」というお母さんを支えた言葉の意味を考えよう。	
想像力の育成	○人生を意欲的に生きるとはどういうことかを考えよう。	
全体を振り返っての感想：		
先生から：		
家庭から：		

(4) 第 5 時

ア 本時のねらい

かけがえのない命をいとおしみ、命はつながり合い共に支え合っていることを実感する。

イ 指導のポイント

(ア) 感動の体験

季節の移り変わりを感じ、その折々のすばらしさを思い浮かべ、一つの命の終わりが新しい命へとつながっていることを感じとらせる。

(イ) 感性を育む

この世に生を受けた葉っぱのフレディが、生きることの喜びを感じていることに気づかせる。

(ウ) 想像力の育成

命あるものが感じる死の恐怖や命の神秘性を考えさせる。

ウ 準備物 絵本『葉っぱのフレディ』（童話屋）、ワークシート

エ 先生の準備（事前の打ち合わせと教員研修）

- ・メッセージプリントの作成

『葉っぱのフレディ』を読み、生徒に配布するワークシートを作成する。資料をもとに、生徒の感想を予想する。

オ 展開

	学 習 活 動	指導上の留意点
導 入	1 葉っぱの色の中で、一番好きな色について考える。	・季節の移り変わりを感ぜさせ、その折々の季節のすばらしさを想像させる。
	2 資料『葉っぱのフレディ』の読み聞かせをする。	・長い資料であるが、フレディの考えや感じていることをじっくり感じとらせる。
展 開	3 ワークシートの質問に答えることをとおして、生きるとはどういうことか、死とは何かについて考える。	・フレディが生きることの喜びを心身ともにしっかりと感じていることを理解させる。
	フレディは、葉っぱとしてこの世に生まれてきたことをどのように思っているのだろう。	
	<ul style="list-style-type: none"> ・たくさんの友だちがいて、葉っぱに生まれてよかった。 ・協力して生きるとはすばらしい。 ・みんなが喜んでくれている。 	・死への恐怖感を感じながらも精一杯生きる姿を感じさせる。
	4 フレディが、次々と友だちがいなくなることをどのように感じているのか考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・次々といなくなるのは、悲しくて寂しい。 ・やがて来る自分の死に対して、恐怖感を持っているのだろう。 	
	フレディは、自分の生きてきた道「いのちの旅」をどんなふうに振り返っているのだろう。	
	<ul style="list-style-type: none"> ・短かったけれど、満足のいく人生だった。 ・葉っぱとしての仕事を一生懸命行い、本当に生まれてきてよかった。 ・自分の命を大切に、楽しく有意義な人生を送れてよかった。 	・かけがえのない命を大切に、楽しく有意義な人生を送ることのすばらしさを理解させる。
	5 命のつながりについて、どのように考えるか話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・死を恐れるばかりでなく、生まれてきて精一杯生きていくことが大切である。 ・みんなで支え合い、生かされていると思う。 ・死んで命が終わるのではなく、新しい生のために生き続ける。 	・命がつながり合い、共に支え合っていることを理解させる。

まとめ	<p>6 ワークシートに、葉っぱのフレディの絵を自由に描き、フレディへのメッセージを書き添える。</p>	<p>・生きることへの新たな思いを言葉で表現させることで、生と死についての理解を深めさせる。</p>
-----	--	--

カ 先生の振り返り（次の実践に向けて）

- (ア) 絵本を授業に取り入れることは、生徒に対してより深い感動を与えていくことにつながり、とても有意義な学習であることと気づいた。そのためには、普段から教師自身が感性を磨いておくことが必要であるということ強く感じた。
- (イ) 『葉っぱのフレディ』の絵やフレディへの一言をワークシートに自由に描き表現する中で、生徒自身の発想の豊かさに気づくことができた。学習において、様々な考えや感想を表現できるような機会を増やしていくことが大切だと感じた。

キ 振り返りカード

振 り 返 り カ ー ド		
年 組 名 前 ()		
	学習・体験の目標 (めあて)	自分の振り返り
感動の体験	○『葉っぱのフレディ』の一生を通じて、感じたことをまとめよう。	
感性を育む	○この世に生を受けた葉っぱのフレディが感じた、生きることの喜びとはどんなものだろうか考えよう。	
想像力の育成	○「さよなら、フレディ」とダニエルが満足そうな微笑みを浮かべた理由を考えよう。	
全体を振り返っての感想：		
先生から：		
家庭から：		

10 実践を終えて

(1) 先生の振り返り

この実践は、「命の大切さ」を実感するために私たちにはどんなことができるのか、ということ考えた1年間の取組の一部である。当初は戸惑いもあったが、実践を進めていく中で、私たちの様々な取組が「命の大切さ」を考えることにつながっていくということを、まず私たち教師が感じた。教師自身が感動をもった題材を生徒に与えていくことの必要性を実感したが、子どもたちにそれを教材として与えていくためには、子どもの視点に立った教材研究

が必要である。また、各クラスの取組が学年全体の取組になるような、広がりのある実践が重要である。限られた時間の中で、文字や言葉だけの理解にとどまらないように、できるだけ「体験」を重視し、実体験にせまるような経験ができるよう努力した。実践の中に新聞や絵本などを取り入れることで、子どもたちが命のかけがえのなさを実感し、より良く生きることを目指せるようになった。

(2) 今後の課題

実践を進めるためには、学校全体の理解や支援が必要であると感じた。本校では、多くの理解を得られたことが実践の大きな力となった。

また、子どもの現実をよく見据えて、「今、何が子どもたちに足りないのか。どんなことが求められているのか」ということを的確に把握して取り組むことが大切である。限られた時間の中で学習を深めていくために、各教科や道徳、総合的な学習の時間等をどのように関連づけていくか、ということも課題である。

11 参考・引用文献

- ・朝日新聞 『いじめられている君へ、いじている君へ』 2007
- ・加藤浩美 『たったひとつのたからもの』 文藝春秋 2003
- ・日野原重明 『いのちのおはなし』 講談社 2007
- ・兵庫県立教育研修所 心の教育総合センター
『「命の大切さ」を実感させる教育への提言』 2006
- ・兵庫県立教育研修所 心の教育総合センター
『「命の大切さを実感させる教育プログラム」実践事例集』 2007
- ・妹尾 彰 『新聞で総合学習 NIEワークシート・100例
—新聞を楽しく読んで考えよう—』 晩成書房 2002
- ・草場一壽 『いのちのまつり つながってる!』 サンマーク出版 2007
- ・桃崎剛寿 『中学校編 とっておきの道徳』 I, II, III, IV
日本標準 2003, 2004, 2005, 2006
- ・安斎浩美 『ビジュアルブック 語り伝える沖縄 第1巻』 新日本出版社 2006
- ・沖縄県高教組南部支部平和教育研究委員会 『歩く・見る・考える沖縄』 沖縄時事出版 1986

事例2 命のつながりを実感する
—「生」と「死」を見つめることをとおして—
(豊岡市立城崎中学校第3学年)

中学校事例 2

命のつながりを実感する－「生」と「死」を見つめることをとおして－

豊岡市立城崎中学校第3学年

1 テーマ

命のつながりを実感する－「生」と「死」を見つめることをとおして－

2 実践のねらい

「生」と「死」について考え、支えられて生きていることに感謝するとともに、自分の考えや気持ちを適切に伝える力を身につける。また、豊かな人間関係を築く力や思いやりをもって人と関わり合う力を身につける。

3 テーマ設定の理由

(1) 本校の概要と児童生徒の実態

本校は、各学年1クラス、全校生徒112名の小規模校で、但馬北部の温泉地に位置する。学校のある豊岡市は平成16(2004)年10月に発生した台風23号により、市内を流れる円山川の堤防が決壊、市街地の大部分が水没し、死者も出る等の甚大な被害を受けた。生徒の中には実際に被災した者や被災した人が身近にいる者がおり、命の大切さを実感した生徒もいるが、多くの生徒にとって、自身が支えられて生きていることを実感する機会は少ない。また、小学校から固定した人間関係にあるため、お互いよく知り合っていないながら本音でつきあえなかったり、あるいは一人ひとりの違いを受け入れられずに、ぶつかり合ってしまったことがある。

そこで、周りの人との関わり合いや生と死について考えることをとおして、命の大切さを実感させるべく本プログラムを実践した。

(2) 指導のポイント

【感動の体験】

- ・自分の素直な気持ちを適切に伝え、共感できる喜びを感じさせる。
- ・自分の周りには、自分を支えてくれる人がたくさんいることに気づかせ、感謝の気持ちを持たせる。

【感性を育む】

- ・大切なものをなくした人の悲しみや心の痛みに思いをめぐらせるようにする。
- ・自他を大切にしたい表現方法を学ばせ、自他を受け入れることの大切さを実感させる。

【想像力の育成】

- ・自分を支えてくれた人に感謝の気持ちを持ち、前向きに生きるとはどういうことかを考えさせる。
- ・生きているのではなく、生かされているという視点に立って命をとらえさせる。

4 事前

(1) 先生の準備

- ・授業の中だけでなくすべての教育活動の中で、命を大切にしていこうとする視点や姿勢を持つ。
- ・構成的グループ・エンカウンター等の事前研修を行い、教員自身の自己理解を深めたり共感性を高めたりしておく。
- ・身近に被災した人がいないか等、生徒の家庭環境等の状況把握をする。
- ・日頃から、命に関係する情報の収集をしておく。

(2) 教育課程上の位置づけ

- ・技術・家庭
- ・英語
- ・道徳

- ・特別活動
- ・総合的な学習の時間

(3) 子どもたちの準備

- ・自尊感情を高める体験をする。
- ・自身の成長過程での体験を振り返ったり、家族に聞き取ったりしたことをまとめておく。
- ・英語科の教材「葉っぱのフレディ」の日本語訳を考える。

(4) 家庭・地域との連携

- ・家庭や地域の人々に対し、命の大切さを実感させる教育を進めていくねらいや趣旨を伝え、理解と協力を求める。
- ・生徒が参加できるボランティア活動の協力を依頼する。

5 本校の実践の特色

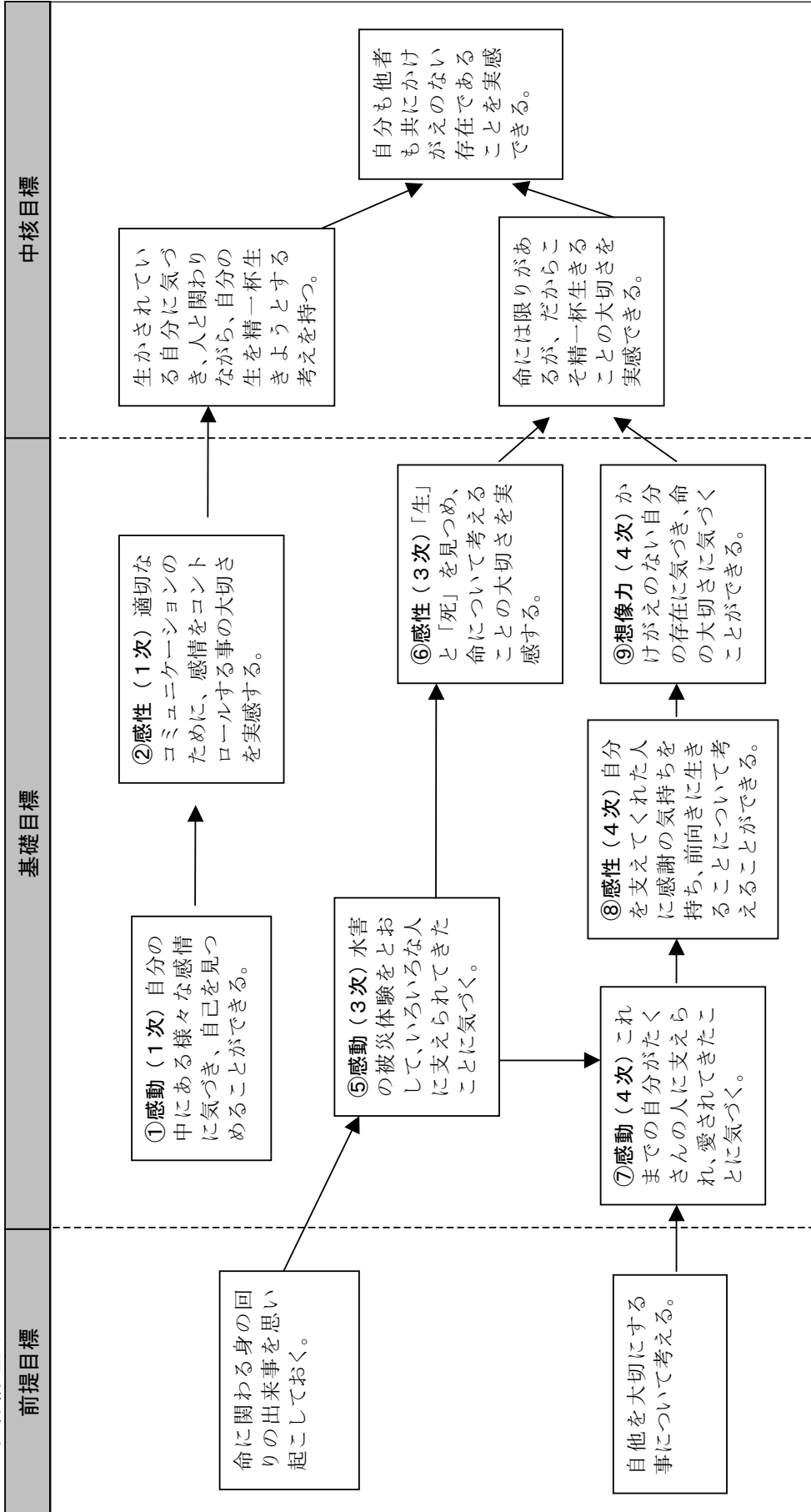
- (1) 体験活動を充実させ、生徒の自尊感情を高める工夫をする。
- (2) 小規模校の特色を生かして全教職員で生徒に関わり、細やかな指導をする。
- (3) 家庭・地域との連携を深め、「ふれあい」を大切にしたい取組とする。

事例2 命のつながりを実感する—「生」と「死」を見つめることをとおして（豊岡市立城崎中学校第3学年）

6 目標分析表

	学習活動	感動の体験	感性を育む	想像力の育成	先生の振り返り	
事前	<ul style="list-style-type: none"> ○自分自身の生活を振り返るアンケートに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自己発見の体験をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○命に関わる身の回りの出来事を思い起こしておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自他を大切にすることを考える。 		
1次（3時間）	<ul style="list-style-type: none"> ○構成的グループ・エンカウンターをとおして自己理解を深め共感性を高める体験をする。 ○いろいろな感情があることを知り、感情の表現方法について考える。 ○アサーティブな表現方法を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○様々な考え方や、価値観があることに気づく。 ○言葉の大切さに気づく。 ○自分の中にある様々な感情に気づき、自己を見つめることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○よりよい人間関係を築くためには、他者を思いやる気持ちが大切であることを感じる。 ○適切なコミュニケーションのために、感情をコントロールすることの大切さを実感する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自他の気持ちをお互い認めあうことができる。 ○相手の立場を考えた感情表現をすることができている。 		<ul style="list-style-type: none"> ○様々な感情表現があることに気づき、適切な感情表現について考えさせることができたか。 ○言葉の大切さを理解させることができたか。
2次（2時間）	<ul style="list-style-type: none"> ○ストレスマネジメントを体験し、自己の感情をコントロールする方法を知る。 ○ストレス日誌をつける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校生活での様々な体験により引き起こされる感情を、自分でコントロールできていることを実感する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分を冷静に見つめ、自分を肯定的に受け入れることの大切さに気づく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分も他者も共にかけがえのない存在であることを実感できる。 		<ul style="list-style-type: none"> ○感情に流されず、自分の気持ちをコントロールできていることを実感させることができたか。
3次（4時間）	<ul style="list-style-type: none"> ○「生」と「死」について考える。 ・命とは何かを考える。 ・死に直面した経験を持つ人や大切な人をなくした人からの話をまとめ、発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○水害の被災体験をとおして、いろいろな人に支えられてきたことに気づく。 ○「死」の悲しみにふれる体験をとおして、命のかけがえのなさを感じ取る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「生」と「死」を見つめ、命について考えることの大切さを実感する。 ○命は自分だけのものではなく、つながっていることを感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○人のために自分に何ができるとか考えることができる。 ○命には限りがあるが、だからこそ精一杯生きることの大切さを実感できる。 		<ul style="list-style-type: none"> ○「生」と「死」を見つめ、命について考えることの大切さを実感させることができたか。 ○命は一人だけのものではなく、つながり受け継がれているものであることを実感させることができたか。
4次（3時間）	<ul style="list-style-type: none"> ○自分が支えられて生きていることを知り、これからの生き方を考える。 ・成長過程でのエピソードを家族から聞き取る。 ・命の誕生について話を聞く。 ・家族への手紙を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○これまでの自分がたくさんの人に支えられ、愛されてきたことに気づく。 ○命の誕生の素晴らしさを感じることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○人に大切にされる喜びを感じ、自分を受け入れる。 ○自分を支えてくれた人に感謝の気持ちをもち、前向きに生きる気持ちを持つことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生かされている自分に気づき、人と関わりながら、自分の生きようとする考えを持つ。 ○かけがえのない自分の存在に気づき、命の大切さに気づくことができる。 		<ul style="list-style-type: none"> ○自他の命のかけがえのなさを実感させることができたか。 ○自分を支えてくれた人に感謝の気持ちをもち、前向きに生きる気持ちを持つことができたか。
事後	<ul style="list-style-type: none"> ○振り返りカードに記入する。 					

7 目標構造図



（凡例）①感性（1次）：「①」は指導の順序、「感性」は指導の観点が「感性を育む」、「（1次）」は学習活動が「1次」であることを示す。

8 事前の教員研修と指導の概要

(1) 事前の教員研修（実施の時期については、(2)「指導の概要」の中に明記）

研修内容	
a	○生徒向けの生活実態アンケートの実施 ・調査項目の選定 ・調査結果の集計 ・調査結果を分析し、各学年の特徴や傾向について把握する。
b	○構成的グループ・エンカウンターについての研修 ・構成的グループ・エンカウターの理論や技法を学ぶ。 ・自己理解を深め共感性を高める体験をする。
c	○コミュニケーション能力を高めるための研修<提言：教員研修テーマ③<I>> ・自分の気持ちや考えを相手に適切に伝える力、他者の気持ちを受け止める力を身につける。
d	○ストレスマネジメントの体験 ・ストレスの概念を学び、様々な対処法を知る。
e	○「生」と「死」についての研修 ・台風23号の被害について、ビデオや資料をとおして被災当時の様子を知る。 ・鎌田実著『がんばらない』、詩「千の風になって」、絵本『葉っぱのフレディ』を読み、意見を出し合う。
f	○保護者への協力依頼について話し合う。 ・子どもの聞き取りの内容について ・子どもの家庭環境について

(2) 指導の概要（全12時間）

内容		教員研修
事前	○自分自身の生活を振り返るアンケート調査に回答する。	a
	○構成的グループ・エンカウンターをとおして、自己理解を深め共感しあう心を養う。 <u>指導実践(1) p60～p62</u> (1時間)	b
1次 (3時間)	1 「誕生日チェーン」 2 「質問ジャンケン」 3 「文章完成法」 ・「こんな時わたしは……」等	c
	○いろいろな感情があることを知り、感情の表現方法について考える。(1時間) 1 嬉しい時、腹が立った時、悲しい時に自分がどのような言動をとっているか振り返る。 2 「ふわふわ言葉とチクチク言葉」 ・言われると悲しくなったりイライラする「チクチク言葉」と反対に嬉しくなったり元気が出る「ふわふわ言葉」をそれぞれ書き出し、声に出して言ってみる。 ・どんな気持ちか発表したか発表する。	
	○アサーティブな（自分も他者も大切にしたい）表現方法を理解する。(1時間) ・自分の気持ちや考えを相手に適切に伝えるための表現を知る。	

2次 (2時間)	<p>○ストレスマネジメント体験をし、自己の感情をコントロールする方法を知り、自他を受け入れることの大切さを実感する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 自分のストレス反応及びストレス対処法を知る。 2 ロールプレイング「うれしい話の聴き方」を体験する。 3 よりよいストレス対処法を理解する。 <p>・構成的グループ・エンカウンター「みんなでリフレーミング」</p>	教員研修 d
3次 (4時間)	<p>○「生」と「死」について考え、支えられて生きていることに感謝し、思いやりをもって人と関わっていくことの大切さを学ぶ。</p> <p>指導実践(2)(3) p63～p68</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 台風23号の被害状況の資料等から、被害の大きさや被災者の心情を受け止め、共に支え合って生きることの大切さを考える。(1時間) 2 死に直面した経験や大切な人を亡くした人からの話をまとめ、発表する。(1時間) 3 詩「千の風になって」をとおして、大切な人を亡くした悲しみを乗り越えることや人と人との関わりの大切さを学ぶ。(1時間) 4 英語の読み物教材「葉っぱのフレディ」から、限りある命を精一杯生きることの素晴らしさを感じ取る。(1時間) 5 命とは何かを考える。(1時間) <p>・「命があと一日しかないとしたら・・・？」</p>	教員研修 e
4次 (3時間)	<p>○自分が支えられて生きていることを知り、これからの生き方を考える。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 家族から自分の成長過程での様々なエピソードを聞き取り、まとめることをとおして、自己肯定感や家族への感謝の気持ちを持つ。(1時間) 2 産婦人科医をゲストティーチャーとして招き、「命の誕生」についての話を聞く。(1時間) 3 家族への手紙を書く。 ・これまでの学習をとおして感じたこと、感謝の気持ちや自分の将来への思いを手紙に書き表す。(1時間) 	教員研修 f
事後	<p>○振り返りカードに記入する。</p>	

9 指導実践

1次	構成的グループ・エンカウンターをとおして、自己理解を深め共感しあう心を養う。
----	--

(1) 第1時

ア 本時のねらい

構成的グループ・エンカウンター体験により、自己理解を深めるとともに共感的に認め合うことをとおして、他者とのつながりを実感する。

イ 指導のポイント

(ア) 感動の体験

日頃の自分自身の心のありように気づかせる。

(イ) 感性を育む

構成的グループ・エンカウンター体験をとおして、ふれあうことの大切さを実感させる。

(ウ) 想像力の育成

自分の気持ちを適切に伝えることにより、他者と共感できる喜びを感じさせる。

ウ 準備物 「こんな時わたしは・・・」ワークシート

エ 先生の準備（事前の打ち合わせと教員研修）

(ア) 構成的グループ・エンカウンター体験をし、教員自身が自己理解を深め共感性を高めしておく。

(イ) 子ども一人ひとりを把握し、学級内の交友関係を掌握しておく。

オ 展開

	学 習 活 動	指導上の留意点
導 入	<p>1 学習のねらいを知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">自己理解を深めよう！</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・参加体験型の授業であることを伝える。
展 開	<p>2 構成的グループ・エンカウンターのエクササイズを行う。</p> <p>(1) 誕生日チェーン 全員で大きな輪になって並び、1月1日から12月31日まで誕生日順に無言のまま並び直す。</p> <p>(2) 質問ジャンケン 二人一組でジャンケンをして、勝った人は相手に質問し、負けた人は答える。数人の相手とジャンケンをした後、知ったことを全体の場で発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あまり話したことがない人と話せた。 ・友達の知らないことがあったな。 ・自分のこと話せてうれしかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動に参加しにくい生徒には強制せず、活動を見守る役割を与える。 ・無言でやりとりをさせ、場の雰囲気をやかにさせる。 ・答えたくない質問には、「パス！」と答えてもよいことを伝える。 ・少なくとも3～4人とジャンケンするよう教示する。 ・発表者に批判や否定をせず、受容的な態度で聞き合うことを伝える。 ・質問する時、どんなことを考えていたり感じていたりしたかを振り返らせる。

展 開	友人の意外な一面を知ろう！	
	<p>(3) 文章完成法</p> <p>ア 「こんな時わたしは・・・」等、未完成の文の続きを各自で考えて記入し、4～5人のグループで紹介し合う。</p> <p>イ グループで気づいたことや感想を話し合った後、全体で発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まねしたいと思うことがあった。 ・共感できると感じるものがあつた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人と話し合わないで自分の考えを記入させる。 ・書けない生徒には個別に支援する。
ま と め	<p>3 授業の感想を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その人らしさを改めて感じた。 ・意外と楽しくできた。 ・こういう機会があつて初めてわかることがあるんだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習を振り返り、感じたこと、気づいたことを自由に出し合い、自己理解、他者理解を促す。

カ 先生の振り返り（次の実践に向けて）

- (ア) 構成的グループ・エンカウンターを取り入れるだけで、予想以上に素直に自分を出せる生徒が多く、友人の新たな面を発見しつながりを実感できたように思う。
- (イ) 自己理解が深まるとともに、友人のよさと同時に集団である学級のよさに気づく体験となった。今後の実践の中に生かしていきたい。

キ 振り返りカード

振 り 返 り カ ー ド		
年 組 名 前 ()		
	学習・体験の目標 (めあて)	自分の振り返り
感動の体験	○自分への理解は深まりましたか。	
感性を育む	○友人とのふれあいをとおして感じたことを書こう。	
想像力の育成	○友人に気持ちを適切に伝えることにより、どのようなことに気づきましたか。	
全体を振り返っての感想：		
先生から：		
家庭から：		

3次	「生」と「死」について考え、支えられて生きていることに感謝し、思いやりをもって人と関わっていくことの大切さを学ぶ。
----	---

(2) 第1時

ア 本時のねらい

台風23号に関する映像等の資料から、被害の大きさや被災者の心情を受け止め、ボランティア活動をとおして共に支え合って生きることの大切さを考える。

イ 指導のポイント

(ア) 感動の体験

いろいろな人に支えられて人は生きているのだということに気づかせる。

(イ) 感性を育む

- ・被災者の心の痛みを感じとらせる。
- ・苦難に遭っても乗り越えて生きていくことの大切さについて考えさせる。

(ウ) 想像力の育成

人のために自分に何ができるか考えさせる。

ウ 準備物 台風23号に関する映像資料、「台風23号に係る防災資料」（豊岡市教育委員会）

エ 先生の準備（事前の打ち合わせと教員研修）

(ア) 台風23号に関する資料収集と話し合い

- ・教員自身の体験も含め、台風23号に関する資料を集め、それをもとに話し合う。

(イ) ボランティア活動についての理解

- ・実際にボランティアを体験した人に話を聞いたり、防災資料から当時のボランティア活動についての理解を深めたりして、それをもとに指導案を作成する。

オ 展開

	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
導 入	<p>1 2004年に大きな被害をもたらした台風23号について知っていることを話し合う。</p> <p>2 1分間黙祷する。</p>	<p>・実際に被害にあった生徒には、事前に話を聞いておく等の配慮をする。</p>
	<p>3 被害状況についての資料、写真、ビデオにより当時の状況・様子を把握する。</p> <p>4 資料を読み、被災者の心情について考え、意見交換する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大切な家がなくなって悲しい。 ・これからどうすればいいのだろうか・・・。 	<p>・被害状況の写真とビデオを見せ、被害の大きさを確認させる。</p> <p>・被害者の辛さや悲しみにふれさせるとともに、前向きな生き方をしようと心が変化したことに目を向けさせる。</p>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> 台風の被害をどのように乗り越えてきたのだろうか。 </div>	

<p>展 開</p>	<p>5 どのようなボランティア活動が行われたかを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・辛い体験だったけれど、人の温かさを感じることができたんだ。 ・「自分の意志で来たんです」と言ってくれたボランティアの人の言葉はとてもうれしかった。 ・自分も困っている人のために動けるようになりたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・泥だらけになりながらも笑顔を見せるボランティアによって、多くの人が力づけられたことに気づかせる。 ・ボランティアの人たちの温かい支えに気づかせる。 ・愛知県のバラ愛好家より届けられた600本のバラの花が被災者を勇気づけたというエピソードをとおして、人が生きていくために何が必要か考えさせる。
<p>ま と め</p>	<p>6 本時の学習の感想を書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・台風の恐ろしさだけでなく、「自分も役に立つことができる」「支え合っている」ことをおさえる。

カ 先生の振り返り（次の実践に向けて）

実際に被災した生徒もあり、当時の様子を思い出させフラッシュバックを引き起こすのではないかと戸惑いもあったが、感想の大半は多くの人たちに助けられ支えられたという感謝の気持ちと、自分も役に立ちたいというものであった。

—被災の町に輝く笑顔—

台風の被害を受けて、間もない頃の、市長さんと復興に多大な尽力をされた職員さんのナイスショットです。連日の疲れが癒された輝く笑顔がここにはあります。



台風の復旧・復興に追われ、殺気立っていた市役所に、愛知県のバラ愛好家の方より600本のバラの花が届きました。すぐに、職員の手によって、避難所に配られ、被災者の方たちを勇気づけました。残った一部を市役所に飾ったとたんのこの笑顔です。

私たちが生きていくためには様々な物が必要です。家、食べ物、水、衣類、お金・・・。

どれもひとつ欠けても生活は困難です。しかしそれだけではなかったのだということ、この写真は、私たちに語りかけています。「台風23号に係る防災教育資料」（豊岡市教育委員会作成）

（保護者の感想）

「台風」とても辛かったです。たくさんの物や思い出、大事な物を失いました。同じ被災された方から「だいじょうぶ。」と声をかけてもらい、自分本位で気持ちに余裕のなかった私を励ましてくれました。

たくさんの人に助けられ、今の私たちの生活ができることになりました。とても辛い出来事でしたが、人の温かさをたくさんいただけることができ、自分が辛い時でも「人を気遣う」ということを教えてもらいました。

キ 振り返りカード

振 り 返 り カ ー ド		
年 組 名 前 ()		
	学習・体験の目標 (めあて)	自分の振り返り
感動の体験	○いろいろな人に支えられていることについて考えてみよう。	
感性を育む	○苦難にあっても乗り越えていくためには何が必要なのだろうか。	
想像力の育成	○人のために自分ができることは何だと思いますか。	
全体を振り返っての感想：		
先生から：		
家庭から：		

(3) 第3時

ア 本時のねらい

死の悲しみにふれる体験をとおして、命のかけがえのなさを感じとる。

イ 指導のポイント

(ア) 感動の体験

人の死がいかに悲しく辛いものかを知るとともに、絆の深さに気づかせる。

(イ) 感性を育む

死について考えることの大切さを実感させる。

(ウ) 想像力の育成

命には限りがあるが、だからこそ精一杯生きることの大切さについて考えさせる。

ウ 準備物 ワークシート（死に直面した経験、大切な人をなくした経験のある人から話を聞いてまとめる）、「千の風になって」（CD）

エ 先生の準備（事前の打ち合わせと教員研修）

(ア) 現在悲嘆にある子どもが存在する可能性もあるので、個別に話を聞く時間を設定する等、子どもの状況や様子を細やかに把握しておく。

(イ) 自分自身の「死」に対する考えを整理しておく。

オ 展開

	学 習 活 動	指導上の留意点
導 入	1 前時の学習を振り返る。	・支え合うことで、水害という辛く悲しい体験を乗り越えてきたことに着目させる。
	2 死に対するイメージについて自由に感じたことを話し合う。 ・死ぬのは怖い。 ・大切な人がいなくなるのは寂しい。 ・もう戻ってこない。	・前時までの学習をふまえ、命に対する考えを深めさせる。
展 開	3 死に直面した経験のある人や大切な人をなくした経験のある人から聞いた話を4、5人のグループで発表する。 ・祖父が死んだことを体で感じたくない気がして、祖父の体に触れられなかった。 ・本当は寝ていて、またかえってくるのではと思った。	・悲しみが強くよみがえった生徒には、個別に話を聞く等の対応をする。 ・話の聞けなかった生徒には、今の自分にとって大切な人をなくした時の思いを想像させ、発表者それぞれの思いに共感させる。
	・もう二度とかえってこないんだ。 ・それだけかけがえのない人だったんだ。	

死に向き合った人の話を聞いて、感じたことを話し合おう。

大切な人をなくした悲しみを感じとろう。

展 開	4 「千の風になって」の朗読を聞く。	<ul style="list-style-type: none"> 大切な人をなくした悲しみを考えさせることをとおして、なくなった人への深い思いを感じとらせる。 命が一度きりであることを改めて確認する。 大切な人とのつながりの深さに気づかせる。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> この詩が、なくなった大切な人から自分へのメッセージだとしたら、どんなことを感じますか？ </div> <ul style="list-style-type: none"> 自分への優しさや思いやりを感じる。 生きることの勇気が湧いてくる。 	<ul style="list-style-type: none"> “なくなっても心の中で生き続ける”という考え方が、残された人を勇気づけることへ思いを至らせる。
ま と め	5 授業の感想を発表する。	<ul style="list-style-type: none"> バーチャルな死と違い、現実の命には限りがあることや人との関わりを大切にして生きることについて考えさせる。

カ 先生の振り返り（次の実践に向けて）

いい資料に恵まれたため、生徒の心を捉えることができたが、大切な人の死による悲しみは、この詩によって乗り越えるという段階でとどまってしまったように思う。お互いが思いやりを持ち、人との関わりを大切にして生きるにはどうすればよいかというところまで踏み込んで考えさせたかった。



キ 振り返りカード

振 り 返 り カ ー ド		
年 組 名 前 ()		
	学習・体験の目標 (めあて)	自分の振り返り
感動の体験	○人と人との絆について考えてみよう。	
感性を育む	○「現実の死」と「バーチャルな死」とはどんな違いがあるのだろうか。	
想像力の育成	○精一杯生きることの大切さについて考えよう。	
全体を振り返っての感想：		
先生から：		
家庭から：		

10 実践を終えて

(1) 先生の振り返り

「命」に関わる悲しい事件が多発している。悲しく痛ましいと感じると同時に、なぜ踏みとどまることができなかったのだろうか、という思いが悔しさとともに湧いてくる。そして、なぜ踏みとどまらせることができなかったのかと。

子ども自身が、実際に生や死に関わる体験が少なくなってきたことを感じていたが、この実践をとおして教師自身の命に対する感覚を磨いていくことの大切さを実感した。教師自身が「命」に関わる身の回りの出来事を意識し、子どもの感性に訴え続けていくことが重要である。「自分のそばで『いじめ』があっても何も感じない傍観者を育てていないか」、「今生きていることを当然のことと捉え、命の大切さに気づかない子どもたちを育てていないか」と教師自らが問い直さねばならない。教師が命に対する深い感覚を持つことで、関わる子どもたちが自分を取り巻く様々な人の存在や出来事にまず「気づく」ことにつながるのだと思う。それこそが「命」について考えるきっかけになると実感した一年であった。

わたし自身、今年一年、あらゆる場面で「命」に関わる講演、本、体験に出合え、自分を振り返るよいきっかけになり、感謝している。

(2) 今後の課題

相変わらず平気で人を傷つけたり、きつい口調で表現したりする生徒が中には見られる。深刻ないじめによる自殺の問題も心ないことばがきっかけとなっている場合が多いだろう。自分の気持ちをどんな「ことば」でどう「伝えていく」ことが、より良い人間関係を作っていくことにつながるのか、もっと深く考えさせなければいけない。「ことば」の力を意識させ、自分の家族や友だちなど周りの人とのつながりを考えていくことの必要性を強く感じた。

本校の研修テーマが「構成的グループ・エンカウターの理論と実践」であったため、「命の大切さ」を実感させる教育へとつなげていくことに苦心したが、実践をとおして、今こそ学校、家庭、地域全体を巻き込んで取り組まなければいけない大切なテーマだと痛感した。

11 参考・引用文献

- ・新井 満 / 文 佐竹美保 / 絵 『絵本 千の風になって』理論社 2004
- ・鎌田 實 『がんばらない』 集英社 2000
- ・國分康孝・國分久子 編 『構成的グループエンカウター事典』図書文化 2004
- ・國分康孝・國分久子 監修 飯野哲朗 編著『思いやりを育てる内観エクササイズ』
図書文化 2005
- ・ストレスマネジメント教育実践研究会(PGS)編『ストレスマネジメント・テキスト』
『ストレスマネジメントワークブック』 東山書房 2002
- ・園田雅代・中釜洋子・沢崎俊之 編著『教師のためのアサーション』金子書房
- ・豊岡市教育委員会 『台風23号に係る防災資料』